【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】令和4年2月14日(2022.2.14)

【公開番号】特開2021-163192(P2021-163192A)
【公開日】令和3年10月11日(2021.10.11)
【年通号数】公開・登録公報2021-049
【出願番号】特願2020-63919(P2020-63919)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｆ　3/041(2006.01)
Ｂ３２Ｂ 27/36(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　3/041６６０
Ｂ３２Ｂ 27/36

【手続補正書】
【提出日】令和4年2月3日(2022.2.3)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
仮支持体と前記仮支持体に支持された感光性樹脂層とを有する感光性転写材料を、前記仮支持体の感光性樹脂層を有する側の最外層を基板に接触させてラミネートする工程と、前記感光性樹脂層をパターン露光する工程と、露光された上記感光性樹脂層を現像して樹脂パターンを形成する工程と、をこの順に含み、
前記仮支持体は、基材層と前記基材層の少なくとも前記感光性樹脂層側とは反対側の面に粒子を含有する粒子含有層とを有し、ヘイズ値が０．５％未満であり、かつ、前記粒子含有層とアクリロニトリルブタジエンゴムとの間の動摩擦係数が０．７以下である、
樹脂パターンの製造方法。
【請求項２】
前記仮支持体が有する前記基材層が、ポリエステルフィルム層である、請求項１に記載の樹脂パターンの製造方法。
【請求項３】
前記仮支持体が有する前記基材層が、二軸配向ポリエステルフィルム層である、請求項２に記載の樹脂パターンの製造方法。
【請求項４】
前記仮支持体の厚みが３０μｍ以下である、請求項１～請求項３のいずれか１項に記載の樹脂パターンの製造方法。
【請求項５】
前記仮支持体の厚みが１０μｍ以上である、請求項１～請求項４のいずれか１項に記載の樹脂パターンの製造方法。
【請求項６】
前記粒子含有層の表面粗さＲｐが０．１μｍ～０．５μｍである、請求項１～請求項５のいずれか１項に記載の樹脂パターンの製造方法。
【請求項７】
前記動摩擦係数が０．２以上である、請求項１～請求項６のいずれか１項に記載の樹脂パターンの製造方法。

【請求項８】
前記粒子含有層がワックスを含有する、請求項１～請求項７のいずれか１項に記載の樹脂パターンの製造方法。
【請求項９】
前記粒子含有層が平均粒子径の異なる前記粒子を含有する、請求項１～請求項８のいずれか１項に記載の樹脂パターンの製造方法。
【請求項１０】
請求項１～請求項９のいずれか１項に記載の樹脂パターンの製造方法を用いて、導電層上に樹脂パターンを形成する工程と、
得られた樹脂パターンをマスクとして前記導電層にエッチングを行い、導電パターンを形成する工程と、を有する、導電パターンの製造方法。
【請求項１１】
ポリエステルフィルム層と、前記ポリエステルフィルム層の少なくとも一方の面に粒子を含有する粒子含有層と、を有し、ヘイズが０．５％未満であり、かつ、前記粒子含有層とアクリロニトリルブタジエンゴムとの間の動摩擦係数が０．７以下である、積層ポリエステルフィルム。
【請求項１２】
感光性転写材料が有する仮支持体として用いる、請求項１１に記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項１３】
仮支持体と前記仮支持体に支持された感光性樹脂層とを有し、前記仮支持体が、請求項１１又は請求項１２に記載の積層ポリエステルフィルムである、感光性転写材料。